

滋賀の文化情報誌
デュエット
Duet

2021 夏 vol.139

特集

滋賀県立美術館 リニューアルオープン!



新撰 淡海木間撰 84

小倉遊亀《磨針峠》

INFORMATION STATION 催し案内 2021 夏

MYBOOK 自費出版物の紹介

SUNRISE BOOK PRESS サンライズ出版の新刊案内

2017年から休館となっていた滋賀県立近代美術館が、名称を「滋賀県立美術館」に変え、6月27日(日)、リニューアルオープンしました。新たな舵取りを担ったディレクターの保坂健二朗さんと、記念展担当学芸員の荒井保洋さん、記念コレクション展担当学芸員の大原由佳子さんに、それぞれお話を伺いました。

滋賀県立美術館

住 所	大津市瀬田南大萱町1740-1
連 絡 先	TEL 077 (543) 2111 FAX 077 (543) 2170
休 館 日	月曜日(祝日の場合は開館し、翌日が休館)、 年末年始、施設点検や展示入替のための休館あり
観 覧 料	常設展：一般540円、高校・大学生320円、中学生以下、県内居住の65歳以上、身体障害者手帳等をお持ちの方は無料 企画展：展覧会によって異なります。企画展の観覧券で同時に開催している常設展もご覧いただけます。
アクセス	JR琵琶湖線「瀬田駅」からバスで「文化ゾーン前」下車、徒歩5分／ 名神「草津田上IC」で降り、「びわこ文化公園」駐車場から徒歩5分

取材／編集部 写真／辻村耕司

※作品写真はすべて滋賀県立美術館提供



河野愛《ことの foreign object》2021

重要文化財《桑実寺縁起絵巻》(二巻) 詞：後奈良天皇・青蓮院尊鎮・
三条西実隆、絵：土佐光茂、天文元年(1532年)、桑實寺蔵(京都国
立博物館寄託) 上巻第二段(部分) (6月27日～7月11日展示予定)

特集 滋賀県立美術館 リニューアルオープン!



滋賀県立美術館について

機動力を高めて、滋賀県にある 多様な美を発信していきたい。

エントランスにて。四角
い案内表示は信楽焼製

持っていてこうとお考えですか。

保坂 一つは「美の滋賀」という、2001年から嘉田由紀子前知事が提唱されていたプロジェクトに発信懇話会の委員として関わらせていただきました。その懇話会の下に部会が三つあり、そのうちのアール・ブリュット発信検討委員会では委員長を、もう一つの滋賀県立近代美術館機能・発信力強化委員会の委員にもなっていたので、三つの委員会にメンバーとして関わってきました。

それとは別に、近江八幡にあるNOMAとは、2006年に開催された「快走老人録」の展覧会評を雑誌に書いたことがきっかけで、2009年の「この世界とのつながりかた」以降、何回か展覧会の企画や監修で関わらせていただいています。

僕は、アール・ブリュットも専門の一つですし、建築の展覧会も一つの仕事にしていますし、近現代美術全般に関わるものも一つの仕事なので、いろんな立場で滋賀県とのつながりがあったということですね。

新しい県立美術館を、どういう方向へ

保坂 一つは、これまであまり特性づけられていなかった、滋賀という地域ときちんと関わる美術館になること。これが一番大きなものですね。

もう一つは、美術というものはいろんな多様性があるんだよという考えを広めること。美術というと、すごく洗練されたものであったり、評価が定まったものという印象がありますが、人がつくった優れたものであれば、それ以外のものに関しても扱っていいような美術館になりたいと思っています。そのうちのひとつとしてアール・ブリュットがあるだろうし、これまで美術には属さなかったものがいろいろあるはずです。

それは、館の学芸員だけでやる必要はありません。新しく設けたラボというスペースは、立ち上げのさい成安造形大学にご協力いただきましたし、今後、いろんな人たちと一緒にやっていければよいと思っています。

このラボやポップアップ・ギャラリートを使って機動力を高め、多様な美というも

のを見せできればと思っています。

——以前、県全域に広がるハブとしての機能を果たすとおっしゃっていましたが。

保坂 美術館から、県内のどこそこにも何々がありますよと紹介することにも意味があります。館から車を使えば20・30分で、湖南市の湖南三山のような国宝の建築物や重文の仏像が集中しているエリアに行けるのは、関東ではなかなかない環境だと思って僕は驚きましたから。

館がハブになって、そうした紹介を、パネルの展示でもよいし、バス会社と一緒にやってツアーを企画してもよいと思います。

美術館という名の下で活動しているから当然、人を招き入れるための施設、美術だけを扱っている施設と思われるかもしれませんが、そうではなくて、滋賀にある美や僕たちが見て優れていると感じたものを伝えていく場所、発信していく場所だと思っています。

ほさか・けんじろう／1976年、茨城県生まれ。
東京国立近代美術館主任研究員を経て、滋賀県立美術館ディレクター（館長）に就任。

滋賀県立美術館 ディレクター（館長） 保坂健二郎さん

リニューアルオープン記念展「Soft Territory かかわりのあわい」について

現代アートの新作展示は、
サファリパークに放り出される感じ。

展示室3入り口前にて。
「この記念展は、美術館全体を使った展示になります」

屋根と天井と壁さえあれば、どこでも会場になりうる。

——近代美術館の休館中に県内3か所で開催なさった「アートのスポットプロジェクト」が、今回の企画展「かかわりのあわい」の元になっていると考えてよろしいのですか。

荒井 はい。年一回ずつ、長浜市、高島市、東近江市の順で開催した3回の試みを受けてという感じですね。2017年に休館に入って、いくつか館の外でやるプロジェクトが動き始めました。

その一つが、県内移動展示といって、当館所蔵の作品を県内の別の施設で展示する企画だったのですが、取り組んでみると非常にハードルが高くて。美術館としてとても重要なプロジェクトですが、保存やセキュリティの条件をクリアした上で展示するには、非常にマンパワーもお金もかかります。

そこで、もっとフットワークが軽く、かつ、いろんな地域の人々とコミュニケーション

ションが取れるような試みができないかと、僕が企画したのが、若手の作家と展示をする「アートのスポットプロジェクト」でした。

それまでの館蔵品の県内移動展示では、展示可能な施設の方と、組織対組織のやりとりでしたが、このプロジェクトでは、極端に言えば、屋根と天井と壁さえあれば、どこでも会場になりうるという発見もあった、それぞれの地域で暮らす住民の方に助けてもらいながら進めた感じになりました。

——地域ごとのアートの理解のある民間企業と協力してという感じがすらくなく？

荒井 1回目の長浜市では(株)黒壁さんいろいろな手伝っていただきましたし、2回目の高島市では、株式会社エーゼロさんにも助けてもらっています。最終的に会場になった場所は、地元の不動産屋さんにお世話になったり、高島市では、農家のおじいちゃんを持っている古い長屋を会場にした

ので、本当に個人とのおつきあいの中で開催にこぎつけた感じでした。

——どのように進められたのですか？

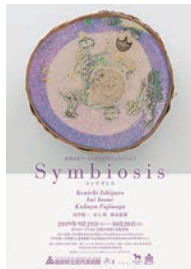
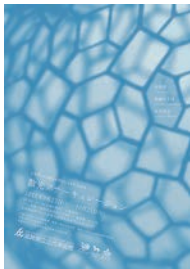
まず、僕がキュレーターとしてエリアを決めて、その中でおもしろそうな場所を探して、会場として押さえる。会場の周辺の文化や歴史をリサーチして、コンセプトを立て、そのテーマに合致しそうな作家さんに声をかけ、作品づくりに取りかかったいただきます。制作期間は半年ほどで、作家さんには無理をお願いした展示だったのですが、非常におもしろかったですね。

僕個人に限れば、福岡で生まれ、育ちはずっと東京だったので、当館に勤めるまで、関西には修学旅行以外で来たことがないような人間だったんです。すごくフラットな目線の状態で、ディープなところへ連れて行ってもらった経験ができたなと思います。

開催中も期間の半分ぐらいは会場にいたので、何度も足を運んでくれる地域の方となかよくなったり。美術館の場合、学芸員

滋賀県立美術館 学芸員 荒井保洋さん





美術館中に3回開催された滋賀近美アートのプロジェクトチラシ

下は展示された作品。上から順に

度會保浩《eagburu-shell of the plant》2018（Vol.1 会場：長浜市）

井上唯《この土地に生きる》2019（Vol.2 会場：高島市）

武田梨沙《Playing with yarn #1》2020（Vol.3 会場：東近江市）



今回は井上唯さんが、展示面積としては一番大きくなります。ちょうどいま、作品に使われる琵琶湖の漁で使われた漁網や漂着物を殺虫しています。美術館の中に入れるには、虫が湧いてはいけけないので。

他の作家さんの作品では、3回目の東近江市で展示をしていただいた武田梨沙さんは、エントランスでつり下げでの展示に

あらい・やすひろ／1986年、福岡県生まれ。2015年10月より新生美術館整備室付の学芸員として勤務。

なります。新しくお呼びしたお二人も展示室の外で、井上裕加里さんは公園をつくり、松延総司さんは石をばらまきます（笑）。細かいコンセプトはまだお話しできませんが、お話しただけの範囲でいうと、何がどこですか。

荒井 一番はオール新作だという点です。過去作の場合は、ある程度定まった作品の価値を私たちは鑑賞するのですが、今回はすべて生まれてきたばかりの作品たちです。過去作を見る展示は、たとえば動物園や水族館で、ガラス越しに見て、名前、生息地、食べ物が解説板を見ればわかる状態。一方、現代アートの新作展示は、サファリパークに放り出される感じ。どこに何がいるのか、全然わからない緊張感があると思います。同じフィールド上に作品と作家と観客がいることになるので、この作品はこういう作品なんだという前提ではなく、この作品は何を言っているんだろうと、コミュニケーションを取っていただく以外ありません。そこで語られているメッセージやコンセプトは、僕らが日常で感じている問題意識に通じているはずですので、作品の発しているものを読み解いてみていただければと思います。

それは、今回の「Soft Territory かかわりのあわい」です。告知チラシにある河野愛さんの作品（2ページ上）は、何ですか。荒井 何が撮られているかというと、赤ちゃんの肌に真珠がはさまっています。今回の展覧会のコンセプトについて、作家たちと話し合いをする段階ぐらいでコロナ禍になって、コンセプトを練り直させてもらったんです。そして、「何かとつながる」、「何かと関わる」というテーマが出てきました。河野さんの場合、ちょうどコロナが始まる直前ぐらいに出産なさって、緊急事態宣言の状況下で子育てをなさいました。命にはもちろんポジティブな意味もありながら、やはり自分の意思とは関係なく自分の中で育っていく異物感みたいなものもある。それと貝の中で徐々に層を積み重ねていく真

珠を接続なさいました。

——実際の展示はどういった形なのですか。荒井 いわゆる普通に額に入れた写真としての展示ではありません。インスタレーションといって、部屋全体が一つの作品になる形ですね。

今回展示される作品には、一般的にイメージされる額縁に入った絵とか、展示台に載った彫刻とかというものは、ほとんどありません。

——「アートのスポット」の作品でいえば、井上唯さんの《この土地に生きる》は、屋根すらなく、森の中に浮かんでいますね。荒井 実はこの作品、まだ現地につり下がっているんです。高島市のおじいちゃん

が許してくれたので。幸い大雪も大きな台風も、まだ来ておらず。

はなかなか来館者の方と話す機会がないというのもあって、地域の人とのコミュニ

今回はすべて生まれてきたばかりの作品たちです。

——そして、今回の「Soft Territory かかわりのあわい」です。告知チラシにある河野愛さんの作品（2ページ上）は、何ですか。

荒井 何が撮られているかというと、赤ちゃんの肌に真珠がはさまっています。今回の展覧会のコンセプトについて、作家たちと話し合いをする段階ぐらいでコロナ禍

——実際の展示はどういった形なのですか。荒井 いわゆる普通に額に入れた写真としての展示ではありません。インスタレーションといって、部屋全体が一つの作品になる形ですね。

今回展示される作品には、一般的にイメージされる額縁に入った絵とか、展示台に載った彫刻とかというものは、ほとんどありません。

——「アートのスポット」の作品でいえば、井上唯さんの《この土地に生きる》は、屋根すらなく、森の中に浮かんでいますね。荒井 実はこの作品、まだ現地につり下がっているんです。高島市のおじいちゃん

が許してくれたので。幸い大雪も大きな台風も、まだ来ておらず。

なります。新しくお呼びしたお二人も展示室の外で、井上裕加里さんは公園をつくり、松延総司さんは石をばらまきます（笑）。細かいコンセプトはまだお話しできませんが、お話しただけの範囲でいうと、何がどこですか。

荒井 一番はオール新作だという点です。過去作の場合は、ある程度定まった作品の価値を私たちは鑑賞するのですが、今回はすべて生まれてきたばかりの作品たちです。過去作を見る展示は、たとえば動物園や水族館で、ガラス越しに見て、名前、生息地、食べ物が解説板を見ればわかる状態。一方、現代アートの新作展示は、サファリパークに放り出される感じ。どこに何がいるのか、全然わからない緊張感があると思います。同じフィールド上に作品と作家と観客がいることになるので、この作品はこういう作品なんだという前提ではなく、この作品は何を言っているんだろうと、コミュニケーションを取っていただく以外ありません。そこで語られているメッセージやコンセプトは、僕らが日常で感じている問題意識に通じているはずですので、作品の発しているものを読み解いてみていただければ

なります。新しくお呼びしたお二人も展示室の外で、井上裕加里さんは公園をつくり、松延総司さんは石をばらまきます（笑）。細かいコンセプトはまだお話しできませんが、お話しただけの範囲でいうと、何がどこですか。

——そして、今回の「Soft Territory かかわりのあわい」です。告知チラシにある河野愛さんの作品（2ページ上）は、何ですか。

荒井 一番はオール新作だという点です。過去作の場合は、ある程度定まった作品の価値を私たちは鑑賞するのですが、今回はすべて生まれてきたばかりの作品たちです。過去作を見る展示は、たとえば動物園や水族館で、ガラス越しに見て、名前、生息地、食べ物が解説板を見ればわかる状態。一方、現代アートの新作展示は、サファリパークに放り出される感じ。どこに何がいるのか、全然わからない緊張感があると思います。同じフィールド上に作品と作家と観客がいることになるので、この作品はこういう作品なんだという前提ではなく、この作品は何を言っているんだろうと、コミュニケーションを取っていただく以外ありません。そこで語られているメッセージやコンセプトは、僕らが日常で感じている問題意識に通じているはずですので、作品の発しているものを読み解いてみていただければ

リニューアルオープン記念コレクション展

「ひらけ！温故知新 重要文化財・桑実寺縁起絵巻を手がかりに」について

地域の文化財から当館の館蔵品を見ると、

どういふ見方ができるのか。

これまででは名脇役ポジションみたいな位置づけ。

大原さんは、県立近代美術館の時代に
来られたのは何年からになりますか。大原 2016年4月から働いています。
1年働いたところで休館になりました。大
学では、長谷川等伯など、桃山時代から江
戸初めぐらいの絵画を勉強していました。——今回、「近代」という言葉が取れたの
は大原さんとしてはありがたいのでは？大原 そうですね。いままで最終的な着地
点を「近代」に持っていかなきゃいけない
雰囲気はあったと先輩方から聞いたりして
いたので。時代のくくりにとらわれずに、
滋賀県の美術を紹介できるという点では。そうした時代区分からの自由さだけでなく、
「ひらけ！温故知新」展は、「こんなす
てきな作品もありますよ」と、地域の文化
財を皆さんに見ていただく場となるように
考えています。そこに、地域の文化財から
当館の館蔵品を見ると、どういふ見方ができるのか、という視点を加えて企画しまし
た。——なるほど。『桑実寺縁起絵巻』を取り
上げようとなさった理由は？大原 滋賀県内で見ていただけるのは、
2010年に当館で開催した「白洲正子
展」以来のことになります。一昨年は九
州国立博物館の「室町將軍展」、昨年は東
京国立博物館の「桃山展」でも展示され
たように、比較的目にする機会の多い絵巻な
のですが、これまでは名脇役ポジションみ
たいな位置づけで、メインにすえられるこ
とはあまりなかったように思います。研究
者は優れた作品だと知っているのだけれど
も、それが一般の美術好きの方にまで届い
ていなかったというか。私も事前の調査で、初めてガラス越しで
はなく作品を見たのですが、まず絵の具の
質のよさに驚かされました。やっぱり足利將軍からの依頼でつくられた、気合の入っ
た絵巻なんだなあと。——当時、將軍足利義晴は近江守護の六角
氏を頼って京から近江に避難していた。大原 そうです。將軍義晴は近江にいな
がら、京都の公家・三條西実隆に、詞書（絵
巻の説明文）の文章を依頼して、文章が上
来ると、絵所預で仕事をしていた土佐
光茂が絵を担当することになり、さらに詞
書の清書は後奈良天皇に頼んじやうとい
うことをしています。——流どころをそろえて、絵巻自体から
は、危機的状況にある足利將軍といった感
じはまったく感じられません。大原 そうなんです。ただ、足利義晴の気
持ちとしては、絵巻を奉納して、薬師如来
の加護で自分も京都に戻れるといいなとい
う思いがあったのではないのでしょうか。実
際、この絵巻を奉納してから、次に京都に
戻れたのは約2年後だそうです。

こうした神仏への祈りもふくめて、『桑

展示室1（旧常設展示室）にて。「カー
ペットだった床がフローリングに、
天井が黒い石膏ボードに、照明はす
べてLED照明に変わりました」

実寺縁起絵巻』から、他の作品を見るため

の三つの観点を提示しています。

ドローンで周辺の風景を撮影して、展示映像を制作しました。

——まず、一つ目が「パノラマの視点」。

大原 今回、ドローンで周辺の風景を撮影してもらって、展示映像を制作しました。

桑実寺がある郷山（近江八幡市）に登って現在見える景観と絵巻に描かれた景観を見比べられるような映像になっています。それを見て、実際に自分で見たいと思った方は、ぜひ桑実寺に足を運んでください。

——かなり一致するのですか。

大原 はい。そのあたりは今回講演会（8ページ参照）でお話したく滋賀県立大学の亀井若菜先生がくわしくご研究されているところなのですが、絵師の土佐光茂は実際に近江まで足を運んで、桑実寺周辺の景観を観察したうえで絵巻を描いたようです。山の形などがぴったり合うんですね。

あの辺りは、埋め立てられた内湖もあるのですが、現在との違いも見てとれます。

ただ、画家は見たままを絵にするわけではなく、足利將軍が仮幕府を開いた地としてお寺の由緒正しさを称揚する意図もあったはずで、実際の景観を生かしながらどう描くかというところに、画家の力が出てくるかと思っています。

同様に画家が景観を取材して描いている作品として、館蔵品で重要文化財の『近江名所図』、横山大観の『鳩之浦絵巻』などを紹介します。

——二つ目が、「ストーリーを描く」。

大原 絵巻は、絵と言葉の両方が内容を補完し合うものなので、その視点から、画家や作家が、言葉や物語に触発されて制作し

た作品をピックアップします。

三橋節子が近江の昔話を主題にした『田鶴来』、小林古径が「竹取物語」をモチーフに描いた『竹取物語 難破』、少し変わったところでは、志村ふくみの「源氏物語シリーズ」、『源氏物語』の巻の名前が作品名になっている細織着物物を展示します。

『桑実寺縁起絵巻』は、近江大津宮に都を置いた天智天皇の頃（飛鳥時代）の出来事にあたりますが、吹抜屋台の技法を用いて宮中の女性たちが平安朝の風俗で描かれていたり（2ページ参照）、『源氏物語絵巻』を連想させるところもあるんです。

——そして、三つ目が「祈りの情景」。

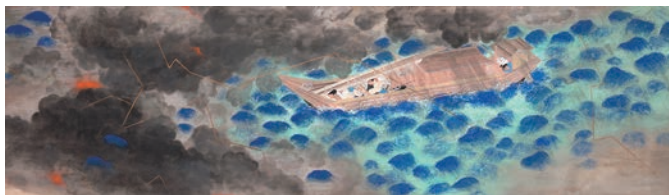
大原 『桑実寺縁起絵巻』の上巻は、天智天皇の第四皇女・阿閉姫の病気が薬師如来の加護で治って、みんな喜んで涙を流します。下巻では薬師如来が水牛と白馬を乗り継いで桑実寺の境内まで飛んできます。姫はその後、元明天皇として即位し、桑実寺に再び参拝して、最後は薬師如来を守る十二神将を従えた日光・月光菩薩が登場。という流れで、絵巻をつくろうとする根底には、神仏への祈りがあったと思います。

その関連で、膳所にある石坐神社所蔵の神像（非公開）を描いた小倉遊亀の『或る御神像』などを展示します。

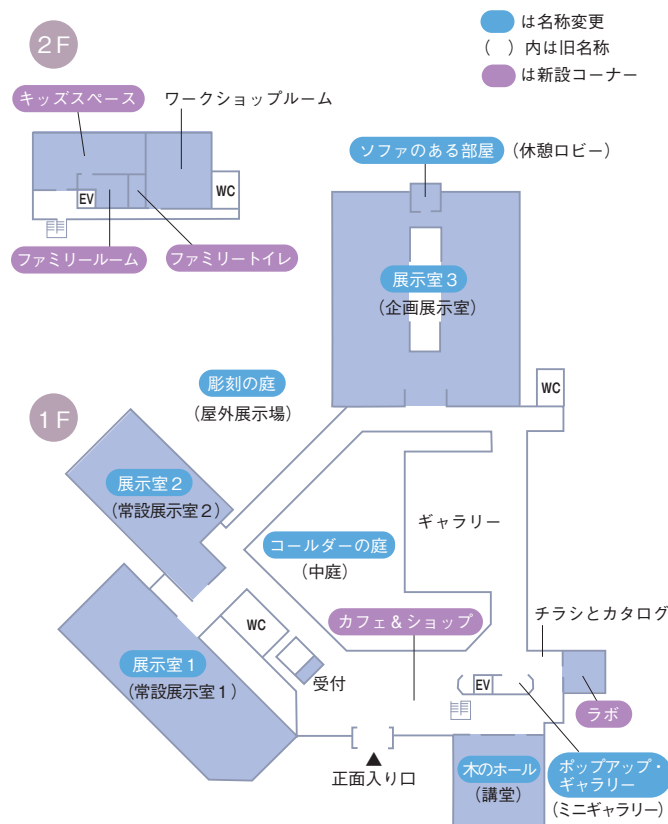
——小倉遊亀さんには、生活や日常というイメージが強いですが。

大原 意外と観世音菩薩を描いたり、この御神像のような作品もあるんです。花や野菜などの静物画の場合も、3点組で描いている作品には、本尊と脇侍による三尊形式が重ねられていたそうです。奥に遊亀さんの信仰心を感じられるような作品を展示します。

おおはら・ゆかこ／1987年、愛知県生まれ。2016年より滋賀県立近代美術館に勤務。



上から順に
重要文化財《桑実寺縁起絵巻》桑実寺蔵、
下巻第一段（部分）
島崎玉淵《琵琶湖眺望図》
小林古径《竹取物語 難破》
小倉遊亀《花三題》（脇）



A



B



C

A 2階に新たに設けられたキッズスペース
B 館北端の「ソファのある部屋」
C 小規模の展示・イベントに活用できるラボ (多目的スペース)

8

リニューアル
オープン記念
コレクション展

ひらけ！温故知新

—重要文化財・桑実寺縁起絵巻を手がかりに—

会 期 6月27日(日)～8月22日(日) 会期中に展示替えを実施
[前期: 6月27日(日)～7月25日(日) / 後期: 7月27日(火)～8月22日(日)]

会場 滋賀県立美術館 展示室1

観覧料 一般 540円、高・大生320円、中学生以下の方、県内居住の65歳以上の方、身体障害者手帳等をお持ちの方は無料 ※「ひらけ！温故知新」展の観覧券1枚につき、会期中2回観覧可(同時開催の企画展は含まない)

スライドトーク

桑実寺縁起絵巻から見る
滋賀県美コレクション

[開催日]

7月4日(日) 14:00～15:30

[講師]

大原由佳子(滋賀県立美術館学芸員)

講演会

《桑実寺縁起絵巻》に見る
近江の景観表現とその物語世界

[開催日]

8月7日(土) 14:00～15:30

[講師]

亀井若菜氏(滋賀県立大学教授)

ギャラリートーク

担当学芸員による
展示解説

[開催日]

7月17日(土)

8月17日(日)

13:30～14:30

リニューアル
オープン
記念展

Soft Territory かかわりのあわい

会 期 6月27日(日)～8月22日(日)

観覧料 一般 1200円、高・大生800円、小中生600円
※本展チケットで入場当日に限り、同時開催のコレクション展「ひらけ！温故知新—重要文化財・桑実寺縁起絵巻を手がかりに—」も観覧可

[出品作家]

石黒健一、井上唯、井上裕加里、河野愛、
小宮太郎、武田梨沙、西川礼華、藤永覚耶、
藤野裕美子、松延総司、薬師川千晴、
度會保浩

↓小倉遊亀《磨針峠》1947（昭和22）年、滋賀県立美術館蔵



小倉遊亀 おぐら ゆき 《磨針峠》 すり はりとうげ

滋賀県立美術館 学芸員 田野葉月 はつき

本作は二曲一双屏風です。日本美術の形式である屏風や巻子は、右から左に向けて鑑賞するのに合わせたストーリー展開がなされることが多いです。まず右端に立つ青年僧を見ると、昼なお暗い山道を足早に登ってきたところでしょう。すると視線の先、画面の左に後光に包まれて斧を研ぐ老婆が現れます。何かと問うと、縫針を折ったため斧から一本の針を磨き出そうとしているところと答えます。気の遠くなる行為に比べて自らの怠惰を恥じた僧は、修行の継続を決意して都へ引き返しました。老婆は観音の化身でした。この伝説は彦根市を通る中山道の峠に伝わります。

右隻と左隻を比較してみましよう。動と静、陰と光、幼と長、迷いと悟りが対照的に描き分けられています。師匠の安田靉彦が僧の裳裾をほめた理由は、その動きが心の迷いを表すかのように乱れているからでしょう。右隻は過去を否定した混沌の境地、左隻は小さな歩みでも着実に前進してゆくという明瞭で安定した希望が感じられます。見つめ合った二人の視線が屏風の境で出会うことで、より対照的な要素を強調しています。

画家は毎日の精神修養を積み重ねることで制作態度を前進しようとする決意を、象徴的に表したと考えられます。敗戦後の混乱期に日本画に向き合い、不退転の決意を固めた画家の姿が青年僧に重なります。本作は院展に出品した代表的作品で、題材は小倉遊亀には珍しい歴史画です。本作を1947（昭和22）年に描いてほどなく、1950年代には画風を一変することから、画家の転換点にある作品と言えます。

本作は滋賀県立美術館にて開催される、リニューアルオープン記念コレクション展「ひらけ！温故知新―重要文化財・桑実寺縁起絵巻を手がかりに―」（8ページ参照）において、6月27日（日）から7月25日（日）の期間のみ展示予定。

ら23年にかけて発掘調査が実施され、旧石器時代から戦国時代におよぶ各時代の遺構と遺物がみつかっています。

本展では、関津遺跡と関津城跡で出土した考古資料を紹介し、近江で育まれた多様な歴史の一端に触れていただきます。



関津遺跡
古代の土器

入館料：大人600円、高大生360円、小中生無料
休館日：8月30日(月)、9月6日(月)・13日(月)

■企画展関連博物館講座(全4回)

7月24日(土) 13:30～15:00

第1回「石器時代の関津」

講師：鈴木康二(公益財団法人滋賀県文化財保護協会)

7月31日(土) 13:30～15:00

第2回「紫香楽宮・保良宮と関津」

講師：松浦俊和氏(元大津市歴史博物館館長)

8月21日(土) 13:30～15:00

第3回「在地土豪の城—関津城を中心に—」

講師：小林裕孝(公益財団法人滋賀県文化財保護協会)

9月11日(土) 13:30～15:00

第4回「関津遺跡と関津城跡」

講師：藤崎高志(当館学芸員)

会場：当館セミナールーム

参加費：各回300円(当日支払い)

定員：50名(申込方法は下記)

お申し込み方法：往復はがきによる事前申込制(受付先着順)。

申込締切：7月14日(水) ※ただし定員に達し次第、終了とさせていただきます。

申込人数：往復はがき1枚につき1人

往復はがき記入内容：《往信裏面》①第64回企画展関連博物館講座申込 ②参加希望回(全回一括も可) ③住所 ④氏名 ⑤電話番号 《返信表面》返信用の郵便番号・ご住所・お名前

申込先：滋賀県立安土城考古博物館

〒521-1311 近江八幡市安土町下豊浦6678

お問い合わせ先：TEL 0748 (46) 2424

家らとともに、銭を払えない人々でも渡橋できる無賃橋(太平橋)を愛知川に架橋します。

本展では、無賃橋の架橋にまつわる古文書や絵巻のほか、その系譜に連なる御幸橋に関する資料を展示します。

入館料：一般300円、小中生150円

※8月14日(土)・8月15日(日)は無料入館日

休館日：月・火曜日(8月9日(月)休は開館)

お問い合わせ先：TEL 0749 (37) 4500

史跡草津宿本陣一般公開25周年記念
夏季テーマ展

大解剖!! 草津宿本陣

—ほんじん、まるはだか!—

7月17日(土)～8月29日(日)

草津宿街道交流館



の新選組の
大福帳の
利用を示す
慶応元年

草津市の歴史的シンボルである史跡草津宿本陣は、今年で一般公開25周年を迎えました。本展では、江戸時代の「本陣」とはどのようなものであったのか具体的に紹介するとともに、明治時代以降、各地の本陣が消えていくなかで草津宿・田中七左衛門本陣がいかにして現代まで守り続けられてきたのか、その軌跡をたどります。

入館料：一般350円、高大生260円、小中生180円

休館日：月曜日(8月9日(月)休は開館)、8月10日(火)

お問い合わせ先：TEL 077 (567) 0030

第64回企画展

発掘された近江

—関津遺跡と関津城跡—

7月17日(土)～9月20日(月・祝)

滋賀県立安土城考古博物館

関津遺跡と関津城跡は、大津市の南部、琵琶湖の入り口に位置する遺跡で、平成15年か

今森光彦展 いのちめぐる水のふるさと

—写真と切り絵の里山物語—

開催中～9月5日(日)

佐川美術館



大津市仰木地区に広がる棚田
©Mitsuniko Imamori

滋賀に住む写真家・今森光彦さんの写真と切り絵作品を紹介。里山に暮らす今森さんのライフスタイルの紹介を織り交ぜながら、写真と切り絵で里山の魅力に迫ります。

入館料：一般1000円、高校生・大学生600円、中学生以下無料

休館日：月曜日(8月9日(月)休は開館)、8月10日(火)

お問い合わせ先：TEL 077 (585) 7800

愛知川無賃橋190年・御幸橋架替60年記念
愛荘むら芝居「愛智河架橋物語」連携企画

令和3年度夏季特別展
えちがわきょう

愛智河架橋略史

—無賃橋と御幸橋—

7月17日(土)～8月27日(金)

愛荘町立歴史文化博物館



愛智河架橋絵巻(部分、江戸時代後期、愛荘町立歴史文化博物館蔵)

江戸時代、頻繁に洪水を引き起こす「暴れ川」として知られていた愛知川。天保2年、愛知川宿の成宮弥次右衛門は、近村の素封



支えられ生かされて

太田 正 著

A5判並製本 総162頁 非売品

問合先 甲賀市水口町古城が丘 2-26 (著者)

滋賀県中体連会長や水口町教育長などを務めた著者が、三重県境の甲賀郡宮下馬杉での少年時代から、中学校教諭時代、校長時代、退職後の思い出を綴る。(2021. 5. 31刊)



古代近江の英雄 天智天皇と秦田来津

丁野永正 著

B6判並製本 総200頁 頒価1000円

問合先 東近江市建部瓦屋寺町134-25(著者)

4～5世紀に渡来してきた秦氏の一族で、中大兄皇子(のちの天智天皇)に登用され、大和朝廷軍の武将として白村江の戦いで戦った秦田来津の事績を紹介。(2021. 6. 10刊)

第84回企画展 大津のどうぶつ博物館

7月17日(土)～8月29日(日)
大津市歴史博物館



大津市指定文化財
(部分) 江戸時代 龍骨図
個人蔵

長い歴史のなかで、人と動物の関わりはさまざまに変化してきました。食料や衣類等を得るための獲物から、飼い慣らして人々の生活の助けとするための家畜、そして人々と共に生きる愛玩動物など多岐に渡ります。

本展では、美術品や考古遺物、歴史資料などに残る動物たちの姿を大津に関わるテーマとからめながら紹介します。

観覧料：一般600円、高大生300円、小中生200円
休館日：月曜日(8月9日(月)は開館)、8月10日(火)

お問い合わせ先：TEL 077 (521) 2100

第29回企画展 湖国の食事

7月17日(土)～11月21日(日)
滋賀県立琵琶湖博物館



桶に漬けられる日野菜

琵琶湖をぐるりと山々が囲んだ湖国・滋賀県には、土地でとれる旬の食材を、おいしく頂いたり長く保存したりする様々な知恵や技が息づいています。滋賀の食事文化の豊かさに触れ、今とこれからの食事を考える企画展示です。
入館料：大人300円、高・大学生240円、小・中学生150円

※別途常設展示の観覧券が必要です。
休館日：8月2日(月)・30日(月)
お問い合わせ先：TEL 077 (568) 4811

企画展「湖国の食事」 関連シンポジウム

未来を醸す ～湖国の食事文化～ 7月31日(土) 13:30～16:00(13:00～受付)

きょう何を食べましたか? 体を、地域を、未来をつくる「食」。伝統食・地産食を手がかりに、湖国の「食」を担う5人のパネリストと未来をよりよくするための醸し方を探ってみませんか?

パネリスト

堀越昌子氏(滋賀の食事文化研究会会員/滋賀大学名誉教授)
川瀬順子氏(長浜市/Tsunagu代表)
中村清作氏(漁師/JF 全国魚漁青連会長)
富田泰伸氏(富田酒造蔵元杜氏)
岡野将広氏(高島市・ワニカフェオーナーシェフ)

コーディネーター

三宅貴江氏
(「湖国と文化」編集長/滋賀の食事文化研究会会員)

会場 滋賀県立琵琶湖博物館 ホール

対象 小学生以上 ※ただし小学生は保護者同伴

定員 120名(先着順) ※web視聴は定員なし

参加費 無料

申込方法

[しがネット受付サービスによる申込]

手続き名「未来を醸す」で検索してください。

会場参加(先着120名)またはweb視聴(定員なし)のいずれかの方法でご参加いただけます。

※web視聴は視聴のみとなり、質問等は行えません。あらかじめご了承ください。

会場参加とweb視聴で申込フォームが違います。ご注意ください。

【往復はがきによる申込の記入内容】

《往信裏面》①参加を希望する行事名「企画展関連講座「未来を醸す～湖国の食事文化～」」

②参加者全員の氏名、年齢、郵便番号、住所、電話番号、メールアドレス(web視聴の方のみご記入ください) ③参加方法(会場参加またはweb視聴) ④一言メッセージ

送り先：滋賀県立琵琶湖博物館 イベント受付担当 〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091

申込締切 7月21日(水)

お問い合わせ先 TEL 077 (568) 4811



琵琶湖博物館ブックレット14 琵琶湖と俳諧民俗誌 芭蕉と蕪村に見る食と農の世界

篠原 徹 著

A5判並製本 総128頁 1650円（税込）

松尾芭蕉と与謝蕪村の詠んだ俳句から「食」や「農」に関する言葉を挙げつつ、琵琶湖の恵みなどを考察。「人と自然の関係」を研究する琵琶湖博物館名誉館長が試みた俳諧民俗誌。

淡海文庫 68 蒲生氏郷伝説

振角卓哉 著

B6判並製本 総198頁 1650円（税込）

信長に絶賛され、秀吉に従い松坂、会津城主となるも、40歳で亡くなった蒲生氏郷。文武に秀でた彼は多くの伝説や逸話に登場する。その事績をたどりながら、伝説の根拠と真相に迫る。

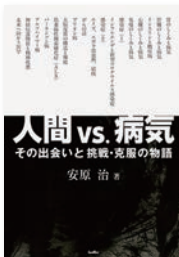


人間 vs. 病気 その出会いと挑戦・克服の物語

安原 治 著

A5判並製本 総192頁 1980円（税込）

人類の歴史は病気との闘いの歴史と言っても過言ではない。滋賀県立大学人間看護学部教授・副学長が、糖尿病、がん、感染症などの病気に対する研究と克服への道のりを解説。



滋賀県立大学環境ブックレット9 水環境調査で失敗しないために 琵琶湖環境の復元と再生に向けて

三田村緒佐武 著

A5判並製本 総108頁 1100円（税込）

環境調査の勘違いと過ちは誰もが陥る。本書を読めば、正しい水環境調査をあらゆる水域で実践することができ、望ましい水環境に修復・保全する思考に役立つ。



近江旅の本 近江の陣屋を訪ねて

中井 均 編著

A5判並製本 総112頁 2200円（税込）

近江国にあった大溝、仁正寺、宮川、三上、山上、小室、堅田の各藩の陣屋跡を探索。移築された建物や古絵図、藩庁間取り図、昭和の写真などを頼りに、往時の小藩の痕跡をたどる。

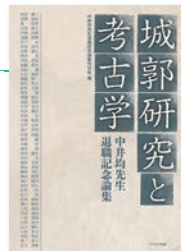


城郭研究と考古学 中井均先生退職記念論集

中井均先生退職記念論集刊行会 編

B5判並製本 総528頁 8800円（税込）

城郭研究のバイオニア、中井均氏の滋賀県立大学退官にあたり、全国各地で共に調査・研究を続けてきた知友、若き俊英たちが寄せた論考50本を収録。



本当はスゴイ！滋賀の文化財

滋賀県文化財保護課 監修

四六判並製本 総144頁 1100円（税込）

滋賀県のスゴイ文化財50件を、時代順に2ページ単位で紹介。知っておきたいポイントをイラストで解説、楽しみながら文化財の基礎知識も身につく初心者向けガイドブック。



沖島の猫

木版画でつづる湖国の暮らし

ひらやまなみ 絵と文

A5判上製本 総80頁 2200円（税込）

滋賀県に移り住み20年の著者が、丁寧に描きつけた作品をまとめた木版画集。日々の暮らしの中から生まれた湖国の風景や草花、鳥、木などの木版画と詩52作品を収録。



表紙写真 滋賀県立美術館の正面

編集後記 本文中ではスペースがなかったので以下に記すと、『桑実寺縁起絵巻』は上巻13m、下巻9mもあるので、4回に分けての展示となります。

6月27日(日)～7月11日(日)：上巻第一段、第二段、第三段詞書

7月13日(火)～7月25日(日)：上巻第三段絵、第四段、奥書

7月27日(火)～8月9日(月)：下巻第一段

8月11日(水)～8月22日(日)：下巻第二段、第三段、奥書



Duetの定期購読をご希望の方は、下記までお申し込みください。

〒522-0004 滋賀県彦根市鳥居本町655-1

サンライズ出版株式会社 Duet 編集部

TEL (0749) 22-0627 FAX (0749) 23-7720
(振替) 01080-9-61946

インターネットでDuetがお楽しみいただけます。

<http://www.sunrise-pub.co.jp/>

お申込先